



ドングリプロジェクト

(第12弾)「ドングリ拾い～播種」

「ドングリプロジェクト」は、7年目になりました。今回のドングリプロジェクト(第12弾)の開催は、平成27年10月24日(土)の午後から行いました。参加者は松阪子ども連合会の児童たちと保護者・引率者(21名)でした。

まず、ドングリを拾い集めることにしました。ドングリは10月下旬になると、実が熟し落果してきます。今回拾い集めるドングリは、クヌギ、コナラ、ナラガシワの3種にしました。ドングリはすぐに播種しなければ苗ができません。子供たちは、みんなでドングリの大きさや樹種を確認してから、当協会の管理ほ場のドングリ栽培場所に播種するとともに、各自が持ち帰って自分で育てるためのポット播きもしました。

その後、子供たちは、拾ってきたドングリの芽が出て大きく育ってくれるのを願って丁寧にたねまきをしていました。その後、昨年播種し1年間育ててきたクヌギ、コナラマテバシイの苗を観察して散会となりました。



(第13弾)「植樹」

今年初(平成28年2月22日(月))のドングリプロジェクト(第13弾)は、コナラ(15本)とクヌギ(5本)の苗の「植樹」でした。用いた苗はドングリプロジェクト(第8弾、第10弾)で松阪子供連合会の児童たちが播種し、育ててきた苗です。

植樹は、昨年度に引き続き、三重県立飯南高等学校に協力していただきました。当該高校の授業の一環として、川嶋先生、築山先生の指導の下、郷土環境系列の2年生(26名)が植樹しました。

コナラやクヌギは、シタケの原木として利用されている木で、シタケ栽培しやすく、よいキノコが生産でき、またドングリをつける木として代表的な樹木です。1mほどに育ったコナラやクヌギの苗木を、生徒たちは、二人一組になって互いに協力し合いながら学校林の植樹場所にショベルで植え穴を掘って、早く大きく育つことを願いながら、1本ずつ丁寧に植えました。その後、植えた苗木には、竹の支柱をしました。

(森川、藤田)



「ベルファームマイ農園」学習会

平成27年10月10日(土) 秋冬野菜についての学習会

松阪農業公園「ベルファーム」にマイ農園があります。このほ場は、一般市民の皆様には土地を提供して、季節にあった野菜を作ってもらおうものです。そこでは、自分の好きなものを自由に栽培するのではなく、栽培

作物や作期をきめて、みんなで学習しながら栽培管理を進めていくことになっています。今年、NPO法人三重スローライフ協会は、その管理や学習会の運営を担当することになりました。

平成27年10月10日(土)は秋冬野菜についての学習会を開催しました。講師は当協会の農業塾や就農者養成講座担当理事(森川、藤田)です。秋冬野菜として作付してあるキャベツ、ブロッコリー、ハクサイ、ダイコン等の栽培管理と収穫時期、その利用方法、さらにこれから播種するホウレンソウの栽培管理が学習会の内容でした。この学習会の急な開催ということにも関わらず、13名に人たちがこの学習会に参加してくれて、楽しく有意義な一時を参加者の皆様とともに過ごすことができました。



平成27年12月27日(日) 第8回 リユース広場を開催しました。



ベルファーム迎春準備イベントに併せて、「リユース広場」を開催しました。年末の気忙しい中でしたが、ご協力いただいたリユース品も整い、「勿体ない」と、たくさんの方々に持ち帰っていただくことができました。今、ご家庭では、再利用して生かしていただいていることと思います。

今回も新品やまだまだ活躍の場のある品があり、私たちの周りの恵まれた生活を振り返り、安易に買ったり捨てたりすることが無いようにしたいと思いました。併せて農業塾で育てた、お正月料理に欠かせない豆、新鮮な大根、ニンジン、蕪、長ネギなど、お正月飾りの葉牡丹、千両、松、なども豊富に出品しました。この日、リユース広場で集まった寄付金は、三重スローライフ協会の子供たちの環境活動に、利用させていただいております。皆様のご協力に心から感謝しております。(近田)

平成26年10月24日(土)

【受託事業】

松阪シルバー人材センター 「ちびっこはうす」芋ほり



松阪シルバー人材センター「ちびっこはうす」の「サツマイモの芋ほり」が、平成27年10月24日(土)に当協会の管理ほ場でありました。就学前児童13名、保護者11名の参加で、10名の松阪シルバー人材センターの就学前児童保育担当者が手伝いとして児童の世話をしてくれました。

このサツマイモは、松阪シルバー人材センターからの委託講座「就農者育成講習」の中で、この講習会の受講生の人たちが「サツマイモ」について学習・実践したものです。子供たちは、保護者と一緒によくそろったサツマイモを、1個ずつ掘り上げるたびに大きな歓声を上げて、収穫していました。

(藤田、森川)

ベルファーム 竹林整備と 竹炭焼きの 経過と目標



平成27年春から当協会がコープみえの環境補助金をいただいて、簡易竹炭焼器「すみやけー」を購入したことをきっかけに、ベルファームの竹林整備と竹炭焼き(二ヶ月に一回)を試行的に進めてきた。その中で竹林整備や竹の利用に関心を持つ人達との出会いが生まれてきた。特に幅広い竹関係の人脈をお持ちの笹原寛次兄が積極的に協力していただけることになり、人手の多くいる作業をボランティアで進めていく可能性が出てきました。

ベルファームの竹林整備や竹炭焼きのねらいは次のとおりです。

- ①まず一年かけて私有地の右側の竹林を整備する。雨傘をさして通れるように余分な竹を全部伐採していき、竹林の散策が可能で、タケノコが出やすい環境に整備する(第一、第三日曜日+a)。
- ②切った竹の一部は可能な限り竹炭にし(毎月第三日曜日を基本)、ごく一部は御城番工場の笹原さんの窯で燻し竹に加工してもらい、竹細工等に利用する。
- ③竹素材や竹炭を利用して、ベルファーム及び周辺の学校等のトイレなどの環境整備に資する取り組みを進める。昨年試行的に行った園内トイレの竹の花飾りや竹炭消臭剤を拡大する。
- ④春から子どもたちあるいは親子を対象にして、竹林整備を通して自然にふれ、竹の加工をする自然体験講座を開く、などです。
- ⑤竹に関する勉強会や他の整備された竹林などの視察見学会も企画しています。

(竹プロジェクト班世話役・大原興太郎)

2015年度後半のサロンフィリア(旧スローな談話会)報告

後半はまず竹本博志氏に続けられている中国との交流の話があり、次いで大原も日中観光農業シンポジウムに招待された内容を中心に話をさせてもらった。爆買いでマスコミを賑やかしているが、それは案外普通の中国人が日本の現実を認識することになっていて、中国政府のプロパガンダにはない日本を認識し、敵対心とかが緩和したりしている。また、中国もさまざまな意味で格差が大きくなり、有機農業も部分的に進んできていることなどが話し合われた。邊見さん、杉山さんの話もこれまでにないものでしたが、サロンの参加メンバーで初めて忘年会を企画し、15名が参加されたことはつながりが広がりが良かったかと思いました。(大原)

平成26年10月から27年2月までの話題提供者とテーマ、参加人数は表の通りです。

	話題提供者	テーマ
10/13(竹輝)	竹本博志	中国との交流
11/10(ネオ)	大原興太郎	隣人(隣国)との付き合い方-変わりゆく中国の一端
12/8(ひな野)	(忘年会)	一年を振り返って
1/19(ネオ)	邊見輝行	災害支援から学ぶ非常時への備え
2/16(ベル)	杉山喜代子	紅工房の農家市場への出店をめぐる
3/17(ネオ)	大原興太郎	ベルファームでの竹林整備等-子どもたちをどのように誘うか-

(ベルはベルファーム開催、ネオはネオポリス・津の開催)